岡山大安寺 同窓会創立60周年 記念座談会

伝統つなぎ交流

岡山県立岡山大安寺高等学校を母体とする岡山県立岡山大安寺中等教育学校（岡山市北区北長瀬本町）の同窓会は、今年で創立60周年を迎えた。2015年に中等初の卒業生が合流し、さまざまな分野で活躍する同窓生の世代を超えた交流が続いている。同窓会長を歴任した岡山大学名誉教授の小出典男氏、岡山県知事の伊原木隆太氏、弁護士で現会長の小寺立名氏と、同校校長の三村美紀氏に、同窓会の歩みや社会的役割、今後の活用について語り合ってもらった。コーディネーターは卒業生の岡山一郎・山陽新聞社客員論説委員。（文中敬称略）

出席者

初代同窓会長 岡山大学名誉教授　小出 典男氏
2代目会長 岡山県知事　伊原木 隆太氏
3代目会長 弁護士　小寺 立名氏
岡山大安寺中等教育学校校長　三村 美紀氏
コーディネーター 山陽新聞社客員論説委員　岡山 一郎氏

「師弟同行」の精神受け継ぐ

―学校の現状は。

三村 中等教育学校となって16年目となり、今春、中等の10期生が卒業した。岡山県内各地から19学区946人が集い、1時間半ほどかけて通う生徒もいる。最大の特色は、前期、後期課程の生徒が混ざりながら学び合いを深めて交流することで、学校祭（同窓祭）では縦割りの4グループに分けてチームを組み、中間期には縦割り生徒を班に編成する教育を行っている。「師弟同行」の精神を受け継ぎ、「チーム大安寺」として生徒や教師が気持ちを一つにしている。

「白鳥祭」体育の部閉会式で肩を組んで校歌を歌う生徒

創立50周年で中等が合流

―同窓会の成り立ちは。

小出 発足は1966年3月11日。卒業式の前日リハーサルで先輩から突然、今から同窓会に入会です と言われた。初の卒業生で当然運用方法や会長も決まっていなかったが、同窓会という「箱」はこの日にはできていたようだ。7月31日、各クラス代表からなる同窓会設立準備委員会が開かれた後に連絡があり、「あなたが会長はどうか」と。生徒会に入っていたわけでもなく、不思議な話だった。1、2期生だけが応募されたが第1回役員の任期には、それぞれの下宿先だけが書いてある。大体4年後には変わってしまい、意味がないが、学生としては実家より連絡しやすいと思ったのだろう。

―50年の長期にわたり会長を務めた。

小出 2015年、香川県病院事業管理者の務めを終えて岡山に帰ってくるタイミングだった。大安寺高校が閉校する時とも重なっていたので、会長は務めることにした。後任は誰かから伊原木氏にお願いした。

伊原木 お話をいただいたのが12年の岡山県知事選挙に出る決めたきっかけで、「迷惑をかけるかもしれない」と小出氏の後援会にお願いしたが、中等教育学校初の卒業生が出る転換期も見守り、もしかしたらそこで彼らが独立して自分たちの学校を作るかもしれないかもしれないと。私としては絶対に高校と中等の同窓会を別々にしてはならないという思いがあった。若い卒業生には年上の同窓生と交流してほしいし、高校の卒業生からすれば、いつか同窓会が消滅してしまうのは寂しい。母振り返ると私が会長になり、知事としての求心力を発揮できるかもしれないと思ったのだろう。

小出 私自身にとって、伝統をつなぐという意味で同窓会だけでなく、大安寺という名前を校歌、校章も変えずきたはずなのに、「同じ」帰郷してみようか、「同じ」帰ろうかな と思ってもらえるのではないかと。できれば卒業生が大学生のうちに、同窓会をそういった情報発信や接点づくりをしたいと考えている。

三村 在学中は教師と生徒が連絡先を交換することはできず、卒業後に母校を訪れるようもいるが、全員ではない。学校側から卒業生に連絡するのは非常に難しいのが現状だ。私が以前勤務していた学校では、20期生の同窓会開催を支援していた。20期のいろいろ、これから社会にどう出て行くか考える時期、そんなタイミングで求人情報などが届く仕組みがあった。

伊原木 大安寺卒業生のような優秀な学生でも、新卒の時は切り手あまたなのに数年たって転職を考えるとなると、急に競争力が落ちることがあると。そんな時に、同窓会ネットワークで相談に乗ってもらえるだけでもいろいろ違うのではないか。あるいは東京で就職したけど地元に戻ってきたい、とかいろいろあるだけでなく、